

平成 20 年 10 月 29 日

遊佐町長 小野寺 喜一郎 殿

遊佐町環境マネジメントシステム  
監査チーム

主任 監査員 鈴木 たみ子

副主任監査員 国府田 諭

## 独自目標監査報告書

L A S - E 独自目標の監査結果について、以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査日程

平成 20 年 10 月 29 日(水)

### 2. 監査対象

山形県遊佐町

### 3. 監査内容

L A S - E 独自目標の平成 19 年度実績

- |                   |          |        |
|-------------------|----------|--------|
| ①エコアクション（環境活動）部門  | 第 1 ステージ | (A110) |
| ②エコマネジメント（環境経営）部門 | 第 1 ステージ | (B110) |
| ③エコガバナンス（環境自治）部門  | 第 1 ステージ | (C107) |

### 4. 監査結果

①A110： ×（勧告事項あり）      ②B110： ○（良好）      ③C107： ○（良好）  
詳細は別紙に示す。

## 5. 総合所見

独自目標の平成19年度実績の評価は、エコアクション部門については×（勧告事項あり）、エコマネジメント部門およびエコガバナンス部門について○（良好）と評価しました。

エコアクション部門では、5つの目標のうち3つが目標達成に至りませんでした。その原因として、取り組みが予想以上に進まなかったことなど主体的な問題が一定あると判断し、部門評価を×（勧告事項あり）としました。しかし他の2つの目標は予想を上回る達成度を示しており、今後の運用次第で改善が可能だと思われます。今回の評価をきちんと受け止めて取り組んでいただくことを期待します。

一方、エコマネジメント部門・エコガバナンス部門では、各1つの目標がそれぞれ達成されており、○（良好）としました。

エコアクション部門における目標未達成部分についての問題点、および勧告事項は次のとおりです。

- 1. 本庁における電気使用量について** 基準の平成18年度に比べ2.5%増加し、目標（3%以上削減）と逆の結果でした。その原因として、猛暑により冷房使用の増加と、本庁における残業時間の増加があげられました。職員一人一人の省エネの取り組みは徹底したにもかかわらず、外的な事情がそれを上回ったとの説明でした。だとすれば、今後は空調・照明など庁舎施設全体の省エネ化が鍵となり、計画的な機器入れ替えや改修が重要となります。次年度からは、そのような対策も視野に入れた目標設定を望みます。
- 2. 本庁における公用車燃費について** 全車種平均で平成18年度比1%悪化し、わずかですが目標（3%以上向上）と逆の結果になりました。職員に対するエコドライブの推進が予想よりも進まなかったためとされています。共通実施項目の監査ではエコドライブの必要性はよく認識されており、しかしそれが実際の運転にまでつながっていないと窺えます。他のLAS-E運用自治体では、エコドライブ講習会を複数開催している例もあります。今後は実効性のある推進方策を検討すべきと考えます。
- 3. 本庁における紙ごみの分別率について** この目標は数値の把握がやや変則的で、実績値の集計結果から算出するのではなく、共通実施項目監査における紙ごみ関連設問の結果から算出するという設定になっています。これで見ると10部署への設問で8部署が○で、80%という結果になり、目標（90%以上）を達成できませんでした。しかし独自目標の本来の趣旨は、各部署・施設の日々の取り組みを数値で蓄積し、その結果全体を評価する点にあります。この趣旨に立ち返って目標数値の設定から見直し、リサイクルへの取り組み度をあらかず実績値に替えることが必要です。

以上をふまえ、今後の取り組みと目標設定について検討されることを望みます。また独自目標の監査にあたっては、各目標の結果を住民監査員にも分かりやすいよう整理し、数値・表だけでなくグラフ等も活用して提供することが必要です。次年度には是非改善していただくようお願いいたします。